



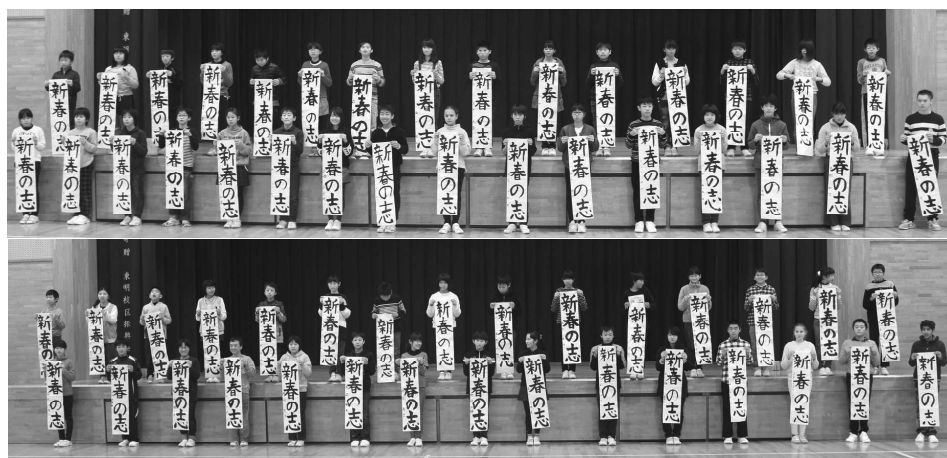
平成30年1月15日

## 新春の志

3学期が始まり、子供たちの明るい声が校舎に響いています。その中にいるだけで自然と笑顔になります。やはり、この活気がないと学校とは言えません。充実した表情、落ち着いた態度、子供たちは幸せな冬休みを過ごし、心のパワーを満タンに充電したようです。やはり、家庭の温かさは子供たちのエネルギー源だと感じます。

始業式の初めに今年の日当てを各学級の代表が発表しました。6年生は中学校進学への希望と心構えを、5年生は最高学年となる責任と意欲を話しました。見通しをもったしっかりした言葉に頼もしさを感じます。本校では、「自分で考える」「ありがとうが言える」「もっとできると思える」の3つを日当てとして4月より教育活動を進めてきました。始業式でもこの3つを忘れず生活してほしいことを話しました。教室に戻り、一人一人が今年の日当てを語り、カードに書きました。心も新たに、それぞれ自分の成長を目指す意気込みを感じます。

3学期最初の学習は書初大会です。会場は張り詰めた空気に包まれています。用紙に向かう子供たちの引き締まった態度がそう感じさせるのです。6年生は「新春の志」と揮毫します。できあがりイメージしながら真剣な面持ちで筆を運んでいます。休み中にたくさん練習を重ねたのでしょう。勢いを感じる作品が次々と出来上がっていきます。書き終わってからも気を抜きません。その場に静かに座り、作品を見つめています。それぞれ今年の日当てを胸に、一年の頑張りを誓っているように見受けられます。後片付けも落ち着いて行います。床の汚れを丁寧に拭き取っています。集中力はこのような機会に身に付くのだろうと思います。



〈6年生の作品〉

「今日のこの気持ちを忘れずに、実りある3学期にする」と、思いを強くしました。